

# みずつき

10



「水」がテーマのアンソロジー  
2021年初夏



mizutsuki 10  
<http://kohagiuta.com/design/mizu10/>

あおとぎ 青時	くろすさりな 黒須紗里菜	たかこ 多香子	みかげことは 深影コトハ
あおかじこは 青藤木葉	こうげつしずり	たきぐらみわ 瀧口美和	みみ 衣未
あさかず 麻数	ごがつにうまれた、 5月に生まれた、	たむらほだか 田村穂隆	みやじまいつく 宮嶋いつく
あめのうずめ 天野うずめ	こがゆみこ 古閑弓子	ちの 茅野	むつらみでのすけ 六浦筆の助
あめかうしとしひろ 雨虎俊寛	こざともり 漕戸もり	ちはらこはぎ 千原こはぎ	むらたかずひろ 村田一広
あうたなのい 新棚のい	さいとうさと 西藤智	つきがらす 月硝子	やまがみあきえ 山上秋恵
ありむらききょう 有村桔梗	さかわみずき 酒匂瑞貴	どうなしゃくふう 堂那灼風	ゆかり 悠佳里
えいじ 泳二	ささきもえ 佐々木萌	なかむらせいじ 中村成志	ゆや ゆき
えだまめみどり 枝豆みどり	さとうはな	ナタカ	ゆりこ
おかだなぎさ 岡田奈紀佐	しおもとにざんほういう 塩本。2381	なうはらもか 檀原もか	よるよなかさりとて 夜夜中さりとて
おぞきひろこ 小崎 ひろ子	しまださくらこ 嶋田さくらこ	にしじゅんこ 西淳子	らま
おりはうさき 折原咲樹	しみずはるか 清水晴架	ぬまじりつたこ 沼尻つた子	りゅうしょう 龍翔
かいぜん @kaizen_nagoya	しゃーちん 西鎮	ネコノカナエ	ルオ
かじはるかずと 梶原一人	じゃっくまめ 雀來豆	はりさきやう 玻璃砂丘	れつどべろべつとけーき Redvelvetcake
がね	すずきともこ 鈴木智子	はるはろしおん 春原シオン	
かれいど 涸れ井戸	すわあかり 諏訪灯	かえうしずえ 管地静恵	
かわざしけいと 河岸景都	せいや	ふくやまももか 福山桃歌	
きくちひろかつ 菊池洋勝	セサミスペース M	みじたまか 藤田美香	
きみむらうい 君村類	そのづかはる 園塚はる	みじもりみさき 藤森岬	
きりのれい 桐野黎	たえなかず	みうらなつ 三浦なつ	

ご参加  
いただいた  
皆さま  
(五十音順 敬称略)

# みずつき

10

74名による444首の「水」がテーマのアンソロジー

## 淡い光源

川がある街に住みたい夜の果ていつでも水に還れるように  
起き抜けに流す涙は朝露です孤独はどこか美しいから  
水で落ちなかつた汚れがついたままシャツは窓辺ではためいている  
スキップの練習をする水溜まり跳ねたくらいで泣かないために  
希望とはこのことだろう車窓からだんだん見える瞬く水面  
朝焼けを包んだ風を受けながらいつかの波止場で君を待ってる

青藤木葉 @konoha\_ao

## 夏の雨

童宮の門をくぐれば海の街きみと渡った島を背にする  
夏の雨 江ノ電乗ればサイダーの瓶をしゅわりとただよう心地  
134号線に躍り出るあの日も雨模様でしたよね  
大切なものを犠牲につよくなるもう泣かないで稲村ヶ崎  
雨上がり神域よぎる江ノ電の車窓いっぱい光る紫陽花  
思い出にテールライトがやさしくてきつとふたたびかえる鎌倉

青時 @madobenoumibe

## ためいき

ぬるま湯で一人半身浴してる。昨日の僕がゆっくりとける  
豊かさを維持するセンスが無さすぎて飲んでたマグで花に水やる  
デザートをジュースで食べる人だつてわかっていたら誘わなかった  
雨の日に流した曲が洒落すぎて今日はこの後晴れなくていい  
水平線手前で沈む色々な人の言葉は多分無機物  
大袈裟なため息湯船で吐き出せば今日のエンドロールが流れる

麻数 @numberhemp

## テーゼ

あちこちにある水たまり悲しみを見出せなくて避けてしまった  
音程が外れてしまったピアノのよう狂ってしまった雨を聞いている  
雨が降り続く映画のエンディング待つことだって愛かもしれない  
納得の安心感を持ちたくて鞆に入れる折りたたみ傘  
はつなつの定義教えてくれないか光集める君のいろはす  
想像の世界の狭さ仄暗い海の匂いを知らずに育つ

天野うずめ @uzume\_no\_hijiri

## あの頃のように

〇かつの字の路線図をゆく あの頃にオンボロ車でもあったなら  
きみのこと並走してる快速が追いつくときの車窓に探す  
改札を通りたいのに精算機が調整中でチャージできない  
一浪の頃とほとんど変わらないとさみしい波止でつぶやいている  
イヤホンをわけあい聴いた曲をいま右耳にだけ再生してる  
夕暮れが間もなく閉じる イヤホンを黄色い係留ビットに舐らう

雨虎俊寛 @amefurashi3107

## Polydipsia

外来の待合室のヤクルトの自販機ばかり明るい夜に  
ジェラピケのパジャマを見せる友達がいない洗面所の水まずい。  
面会のママに麦茶をぶち撒けた後悔はない反省もない  
格子窓越しの世界は土砂降りの雨が続いてダルさがバないな  
傷だらけダメージデニムより酷い右腕お湯が滲みて痛いし  
水中花それになりたい永遠に閉じ込められるなら美しく

新棚のい @hccmono

## はつなつ

真夜中のみづ飲み干せばたくしのまなこに届く他界のほのほ  
はつなつ、と口に出したらたちまちにあふれてしまふ噴水がある  
やはらかな愛撫のやうに雨が降る 天気予報を裏切りながら  
五月雨をあつめてしまふさみしさの透きとほるまで空をみてゐる  
さみしさとさびしさにある サイダーとキリンレモンほどの違ひが  
ゆふぐれにすこしおほほめに塩をふる海の記憶を持たないひとよ

有村桔梗 @chattenoire\_k

## 雨音

目が覚めて聞こえる雨の音 僕はペットボトルのふりをやめない  
眠たげな小さな声の一滴をゆっくり飲み下すように聞く

「今日何位だった？」「雨やむ？」うざいから朝のテレビを見るようになる  
雨の日は少し近くにいるような気がする 何回も頷いて

少しずつ満たされてくるちゃぶちゃぶと君には聞こえないだろうけど  
冷えないウィルキンソンを少し飲むさっきの君の声に似ている

泳二 @Eishimada

## まちがいだらけ

かなしみをなかつたことにした罪でランゲルハンス島まで泳いだ  
ゆるされて海の碧さの中にいる ここはかつての風葬の丘

それはまたべつのおはなし シロップに浸かる桃にも言い分はある  
曲がるのに曲げないままで吸うストロー優しい人は少し間違う

あの、海はどちらですかと訊くひとはなぜ僕なんかを信じるのだろう  
囁きはいつか銀河になりました 詩人が死んだあとのことです

枝豆みどり @edaname\_midori

## バスタブ・オフィーリア

つまずきとよろめきどちらでもいいよ仕事帰りのドラッグストア  
雲色のマニキュアを乾かしている間に雨の季節へ到る

野の花の香りの入浴剤を入れ身体を折ってあお向けになる  
オフィーリア このままわたしが絵になれば誰が最初に気づくだろうね

木曜は燃えるごみの日やさしいと言われたことも袋の中へ  
揺れるのは水、炎、スカートの裾 わたしは意外とびくともしない

岡田奈紀佐 @spice16g

## 水無月の馬

旅先のきれいな水に透ける陽のその先にある夏の輪郭  
そのたびに〈失意〉に出会ひさうになるいつかどこかで出会った君に

持ち帰る花束ながくうつくしく透明の瓶のいまどきの水  
咲き誇る色を残して部屋隅に真紅の薔薇のドライフラワー

いつだったかも定かではないままに出会ひも別れも雨音の中  
雨粒のひとつとなりてこれの世をいつかうるほす水無月の馬

小崎 ひろ子 @hioritsukimiru

## 桜桃 cherry 2020

天気雨ふるふる弁当屋の屋根の上昼下がりに夜勤明けの人  
おばあさんわたしがなる頃この記憶湖に浮かんでいるポート  
よそ行きで会おう懐かしい河原とか「愛しています」永遠誓う  
泡立ったクリームソーダ食べる夜君は何でも混ぜて食べてた  
黒髪は海上戦で血を流し私は艦尾にはりつく藻屑  
聞こえるか記憶は地層いま解ける溶け始めた雪 春はこれから

折原咲樹 @sak30thr

## 手洗い

立ち上がり水栓使い手を洗う家にいる前我が家の習慣  
蛇口には三回水をかけてます自動水栓なつてはいない  
指先とくるぶし手のひら指の中爪少し立っていたくないほど  
入り口に蛇口のある店嬉しいね大きなよこが流れ墮ちゆく  
トイレでは自動水栓増えてきて基本設計項目にする  
仕事場も外に水栓あるとよし。みんなの手洗い習慣になる。

@kaizen\_nagoya @kaizen\_nagoya

## Receive

ソーダ水 色とりどりに彩られ生まれた意味ははまだ知らざり  
産むことをいまだ知らざるこの二人かすかな雨に傘をさすかな  
好きな人思い切り好きと言いたし冷たき水で皿を洗いつ  
水色のゴミ回収車はつなつの狭き路地よりひねり出でくる  
雨上がり青空うつすにわたずみ 父への愛は伝えがたしも  
銀河よりたつた一つの命享く 口移しする水生ぬるし

梶原一人 @MrDekopin

## 献血と人

てきばきと働く看護師が捌くB型400mlの男性  
充分な濃さがありますと寝かされて血をとられる人の集まり  
ごうごうと唸る機械に繋がれて小さなテレビ画面と並ぶ  
モニターに映るひかりが人間から抜いた血を正確に数える  
28歳男性の血液が身元不明の血液になる  
三杯は飲んでください血液を再生産する容れ物として

がね @amicus08

## 大雨の予報

雨の日に思い出す人雨の日のバス停でだけ出逢う不思議な  
ぼたぼたのしづくもろとも傘袋市バスは揺れながら発車する  
紫のレインコートの両肩が濡れているので色がやや濃い  
湖と山に挟まれた町ではアップテンポで天気が変わる  
引越しの知らせが届く東京は湿度が低い羨ましいな  
大雨の予報を見てる夜勤の日テレビを消して布団にもぐる

漣 井戸 @kareido111

## ミネラルの味

指先を濡らした水の一生はグラスハープを奏でて閉じる  
触れたとき痛い冷たさ感じたら水道水は生の証明  
口数のとても少ない友達が分かったと言ったミネラルの味  
遠くにはまだ行けぬから思い出でぬるいばかりの水面に触れる  
飲み干した命はきつといつの日か私を伝い私へ還る  
蛇口から落ちる雫の先に広がる町はきつと平和だ

河岸景都 @kate\_kawajishi

## ビキニかう

足腰と女の肌の草臥れた母は乳房の汗水を拭く  
あてがへる瓶に入らぬ小水が尻に回つて身に染みてゐる  
消毒の昔はどれも滅菌す今は水道水で良しとす  
申し訳程度に着けるビキニからスクール水着の日焼け跡魅す  
野次飛ばす暴言を吐く杉田水脈議員の口を塞ぐフェラチオ  
宮崎美子のビキニ眩しき頃思春期は水風船の如

菊池洋勝 @kikitte

## 不完全犯罪未遂

人体の六割は水 心臓をめぐる殺意も水でうまれた  
「殺すって言っちゃだめ」との忠告に殺されていくお冷の水  
輪を持ってない天使もいるねテーブルの水の跡地はとぎれとぎれだ  
リアリティ みんな氏名を持っていてぬるくなろうとお冷はお冷  
いた席にスプレーされるアルコールたしかに水は溜まれば腐る  
人体の六割は水 水ではない四割のせいで殺人は罪

君村類 @kmmr\_109

## 水の昏さ

湖がある 君の微笑みの中 そこにかなしい舟の浮かんで  
君と僕に降るべき雨をさがしたいひしゃげた傘をはばたかせたい  
君ならばたやすく漕いでゆくだろう私の中の水の昏さを  
溶けきれない私を容れた水槽が漂う夜の青緑色  
あの雲が虹に恋するはかなさで抱きしめたなら忘れなかった  
あきらめの雨が降るから踊ろうかアンドロイドとウィンナ・ワルツ

桐野黎 @Tower11710

## 遺伝子は残さない

水道のゆるい蛇口のちよぼちよぼで頭痛をおこす私の羊水  
羊水がうずく痛みは遺伝子を残す気がない神の怒りか  
母という文字に隠れた海になる雪解け水をつくらないからだ  
先妻の子供がいるからダムになり水蓄えよあなたのために  
シャボン玉が円グラフ書き屋根の上はじけた水が頭上にかかる  
掌で掬う真水のようにきく君が伝える言葉のすべて

黒須紗里菜 @TUKI1226

## 誰かの恋

一年前 生まれて初めて恋をした 梅雨の季節は恋の季節  
雨が降る 時間もなぜか幸せだ 脳が確かに恋をしている  
雨の日も気にせず濡れていきそうな あの人のこと考えている  
この恋も 作品にする自分だし 失恋だつて怖くはないよ  
『永遠の片想いなら幸せだ』 キーボード打つ 雨、窓を打つ  
恋をした、失恋をした、後悔はどこにもないよ梅雨明けの時

こうげつしずり @umisorayoru

## アネモネの記憶

惨憺と無様に枯れた花手水君に見られず死ねてよかった  
ぐるぐると排水溝に流されて海を目指した君の精液  
真夜中の波打ち際で口付けを ふたりいっしょに人魚になろう  
雨音がしんと鳴る部屋の隅目覚まし時計壊れたままで  
投げつけた花瓶が割れる深夜二時 水飛沫舞うアネモネの恋  
注がれた電気ブランの琥珀揺れ失くす境界とろけてたゆむ

5月に生まれた、 @Woodsorel\_25

## 魚は涙を流さない

雨ふれば街は水族館になるバスの四角い窓の向こうに  
くるしくはありませんかの問診も魚は涙を流さずにいる  
スミミの鱗がほしいときどきは勇気を抱く御守りとして  
ひかりより遅く産まれたからだろう水はひかりの弟のよう  
夢のなかゴミ収集車がやってきてわたしを海へ運んでしま  
う生きている化石のような生活にシラカンスの深いねむりを

古閑弓子 @yumikoky

## 川底にて

くるぶしに肉つきにくくスニーカーソックス踵へ踵へ沈む  
嘴でつつくみなもはゆれやすく小鳥は浮いたままに潤う  
びょうどうにプールの時間があつた夏一生ぶんの消毒をした  
川底へ沈んでいれば生きているのちは重きうすい魚に  
めぐすりの苦さが喉をくだりゆき水位があがるとくぐれない橋  
夕立にすこしひろがる傘売り場おもいだす傘今ほしい傘

漕戸もり @muramy3939

## 乾かない体

公園の蛇口に髪を押し当てて胸まで伝う水の清しさ  
ぐるんぱのなみだおおきいあれくらいいきちんと泣いていればよかつた  
思春期のナイフをすん、と受け止めて汁の滴る瓜の成熟  
一度押すだけでいいのか教えてよカルピスソーダあふれてしま  
う解体中のビルに水撒き虹の出るこんな終わりがよかつたのにな  
銀色の魚群一度にひるがえる品川駅の朝を夢見て

西藤智 @hionosulab

## 青を見下ろす

空も街も樹々も私も足跡もロイヤルブルウに染まる明け方  
右頬に落ちて涙に擬態する一分後には気化する何か  
滴れば波紋 波紋 波紋 いつか世界に融けるやうにしづまる  
傘に付く雫を払ふこともなく脛を濡らしたままの坂道  
天泣と言へば人間らしくなる空を仰げばまた泣く空は  
葉の上の雫のふるへを知つてなほその先にある青を見下ろす

酒匂瑞貴 @sakawa\_mi

## 水無月のきみ

梅雨空をきみの笑顔がふきとぼす 涙にぬれた心が晴れる  
約束ね 次のデートは糸島の海沿いにあるカフェに行こうね  
ざあざあと雨の降る音、聴こえます きみの街でも聴こえますか？  
紫陽花が一雨ごとに色づいてきみの心も変わっていった  
言えなくて飲み込んだきみへの思い ひとつひとつを海へとかえす  
おめでとう 水無月生まれのみみがまた三ヶ月だけ歳上になる

佐々木萌 @19moesasaki29

## 水面

はつなつのあかるい雨を避けながら赤い傘にてきみに会いにゆく  
速さとか遠さのことを言ったのち水紋を見る、夏の水面の  
夜闇にも花は香って早すぎた告白のこと悔やんでしまう  
川底へしずむ王女の絵の中に鈴なりの花、そこだけ白く  
水際に立てばさみしさ透き通る月さえきみは身のうちに飼い  
もうここで降る花びらを浴びながら夏への門になってみようか

ちとうはな @s\_hana111

## 岸辺から

海の底まで届いたよ六月の雨に祝福された写真が  
せせらぎに混じりはじめた金の糸 夜の気配に君の手を取る  
この胸にぼこんぼこんと湧く水がたぶんあなたに恋を伝えた  
人參の皮を厚めに剥く母のような水道局のやさしさ  
水圧を最大にして水を撒く花壇を超えて虹がかかって  
岸辺から言葉のひとつみずうみに浮かべ波紋が消えてゆくまで

塩本。 2381 @tankanosio

## 水無月

雨の日の戸板の匂い表札に銀次とあって金太をさがす  
もう止むよ、古くて暗い喫茶店の適切に熱いコーヒーを飲む  
湖の水の匂いのふるさとの話ぼつぼつ横顔のまま  
差し出せばここは川のようにだから咲くこの花は梅花藻という  
優しさとは無知は似ているわかつてる今はトマトに水をあげない  
ただ海を眺めるだけの宿に来て、ぬるい温泉、きみのうたた寝

嶋田ちく(っ) @sakrako0304

## 廻まわるしずく

春の夜に雨粒は溶けあかるさと水溜まりにだけ姿を見せる  
撥水と思っていたら浸み込んでわたしは水に包まれてゆく  
水を脱ぐ 乾いた水はこの部屋の空気となつてわたしに触れる  
あたらしく体に入れるために汲む水にもすこしさっきの雨が  
雨を飲む 降らせはしない間々に満ちてわたしの潤いとなれ  
静けさに顔を出す月この濡れた夜にひかりを柔く溶かして

清水晴架 @haru\_uka24

## グレーチング

月光の飛沫だろうか濡れている臉に気づかないふりをして  
たしか雨上がりのはずの描きかけのあなたの青い絵はゆうまぐれ  
溢れてたミルクを舐める猫たちの背中をあまくあまく波打つ  
たぶんもう終わるんだろうときどきは湿度の海に浮かぶとしても  
でも何度でも呼ぶよ、でも声帯を震わすことはないはず二度と  
嵌められたグレーチングのしたにいてなお願けるばらばらの月

西鎮 @xi\_zhen\_ivUT

## 雨が来る

三匹の猫が入って来れぬよう水のボトルを三つ並べる  
あかときの自転車道にしらじらとビクトグラムの自転車死せり  
雨が来るのを待つんだそして歌に詠むそれが「こつ」だと彼女は言つた  
ぼくらは川へ洗濯に（生まれて初めて）行きました 街に、大地に、血の匂う夜  
自転車の少女の背負う水玉のリュックが朝の辻を曲がりぬ  
夏は朝。「時間がないの」と言いながら私は雨について行きました

雀来豆 @jackbeans2

## 落へ

これは川。流してしまえと聴こえるの。桜川つてどこにでもある  
これは池。汚れてしまえと囁いた。校舎の裏で幽霊を見た  
これは沼。落ちていければそれが楽。夜も寝ないでお話しをする  
湖か。わたしが名付けた感情を。噴水絶えずに虹を作つて  
これは海。思い出すのは瀬戸内海。あの明るさは破壊の火花  
さあ渚。わたしはきみの声を奪いあの境目を行くのでしょうか

鈴木智子 @cfun820\_ts

## 雨雲と

青梅が売り場に並ぶより前にこの町に来たせっかちな梅雨  
水面に映った空が揺れだして雨の時間が今日も始まる  
新しい傘のデビューの日に迷う土砂降りはやや霧雨もイヤ  
やんだかを知りたくて見る窓の外まだ水紋が水溜りに浮く  
めりはりが効いている空さつきまで降っていたのにいま夏の顔  
眠りから浮上しかけて両音に聞き入るうちにまた夜のなか

諏訪灯 @\_skydew

## 夜を越え

眠れずに川を見に行く黒々とまなこのような水面に語る  
滝のなか投げた木の枝言い出せぬ願いと共に沈め底まで  
白雪に寝転び腕を動かせば地面に残る天使のかたち  
肺に満ち泡立つ水は最期までもがき苦しみ沈んだ証  
涙さえ川となるのだ尽きもせぬかなしみがなぜ海とならずや  
海をゆく蝶を見送る羽ばたきどうか春まで届けと祈る

せいや @petichante

## 水音を紡いだら

外の音なのにの音？ 雨の音？ くるまを洗う音？ 聞いたことない  
雨となりスクール通りの君のコートのおしずくとなり流れ散る  
駅前路地盤や不動産屋雨パッティングの音響く歩け  
水溜まりに浮かぶ空へ飛ぶ小石世界をこわした私自身  
頭蓋骨を指のはらで押さえると立ち現れる深海の底  
紡いだら海になる糸を垂らして枯れた体をぐるぐる巻きに

セサミスペース M @sesamespace\_m

## 水晶のころ

六月は毎朝ひとつ夏になる ちゃんとした雨ちゃんとした風  
コーヒーの湯気は軽やかつま先でベトリコールの波間をぬけて  
缶底を覗けば光るハッカアメお前はそこで水晶となり  
いつもより海が近くにあるような気がする波浪警報が鳴る  
本当に赦されているのだろうか水蜜桃のひかりを犯す  
夜更けまで話していたい宇宙とかメロンソーダのパニラのこととか

園塚はる @sonozukaharu

## わがままな空模様

ここに早い夏があるから晴れ間にはフルーツパーラー前にたたずむ  
熱っぽく話すあいだに水玉の傘もあなたも乾いてしまう

左手にかばん右手に紺の傘 そっと優しく避けられて、駅

梅雨は梅雨真夏は真夏傷は傷 やはり上手に生きられずいる

もう別に海に行きたい恋じゃない 天気予報は外れたそがれ

あなたには水色の街私には灰色の街 梅雨のさなかの

たえなかず @suzusuzu2009

## 墓標

王様は愛する王妃を納めたり タージマハールは真白き墓標

水無月は何とつまらぬ夢だろう 首かすかに振る薔薇の葬列

飲んだくれ昨日の恋を投げ捨てる 白い月出るゴミ集積所

紫陽花に小さな小さな雨蛙 六月の雨は何も語らず

腕を上げ胸の奥まで深呼吸 水は清らに私をみたくして

岸壁に海の墓標とつぶやいて雨の降らない街に帰ろう

多香子

## きれい

きれいってなんなのだろうなぜ水で流せばすべてきれいになるの  
ねえそれはきれいになったのではなく水で汚れているんじゃないの  
体内の半分以上吾も君も水に汚されながら生きてる

でも君はきれいだ汗をかいても泣いても涎垂らして寝ても

ゆらゆらと揺れる水面にはじかれた光や虹も確かにきれい

信じたいものを信じている人に浴びせる水はきれい？きたない？

瀧口美和 @abcdefghijklmniw

## 曇られているのは？

朝靄に空と湖面が繋がったあの日からもうずっと眠い

白黒の海の写真に海面は火星を包む地平のよう

行列に蟻の遺体を運ぶ蟻ももうすぐ雨が降る午後の庭

どのカーブミラーも少しうなだれて雨にうなじを 曇されている

霧ふかく満ちる草原その家に住んでいるのは祖母の祖父の祖母

洗われて洗われすぎて砂浜の砂もうなにもおもいださない

田村穂隆 @Da\_Ho\_Ra

## 梅雨生まれ

自転車のサドルに残る雨粒を拭えばそこは平穏な朝  
ブリーツをほどこいていった夕立のような言葉を投げかけられる  
つらいのめかなしいことも水たまりみたいに分かりやすかつたらな  
新聞をくしゃくしゃにして詰めるたび柔らかくなるローファーでした  
ペランダのサンダルすこし湿っててそういうときの話をしたい  
梅雨生まれだからわたしは雨が好きと思えるように紫陽花を見る

茅野 @white2autumn

## 雨をききつつ

さみしさを正方形につめこめば雨の止まないインスタグラム  
船を漕ぐ きみまで届かない日々をどこまでも波さか立てながら  
間違いと知っててふれた指さきは間違った熱ばかりを孕む  
ゆるやかな偽りだからあいしあう遠く遠くに雨をききつつ  
公園の濡れた芝生に冷やされて ただいま、わたし ここが日常  
大丈夫 体には海が詰まっててときどき目から溢れたりする

千原こはね @kohagi\_tw

## しんじょうさん

新しい小さな街の噴水は水泡みなぶのように生まれては消え  
今ももう無い噴水に住んでいたしんじょうさんという名の稚鯉  
真っ白な身体に赤い丸一つ載せて泳いでいたしんじょうさん  
噴水が弱まり苔が兆しても日ごと育っていたしんじょうさん  
スーパードと共に噴水壊されてしんじょうさんのその後を知らず  
青空に時折泳ぐ日の丸を載せた巨大な鯉のまぼろし

月硝子 @gesshodo

## 透明な

人は地球をまねして生きる午前二時 涙のあとを洗い流して  
やわらかく耳を当てれば血のかような誰の胸にも潮騒がある  
あるだろう白く濁った水壁も透明だった日の思い出が  
うすく塗るハンドクリームここにある命を明日もめぐらせるため  
液体の水のなごりを告げている笑ったような岩肌のしわ  
ながればし 旅の終わりに一度だけ光ってこの星に燃え尽きよ

堂那灼風 @shakufu

## そうみつ

驟雨一蹴躑躅の蜜に毒あるを知つてなお掴むこのうすあかり  
産まれてのちその身の内に取り込んだ水の数だけ花育めよ  
基督の飲む乳釈迦の飲む乳のなまぬるさ思う木椀を手に  
どくだみの花群軒並み筆られて庁舎裏へと満ちゆく異臭  
深更のスノードームに詰められた水のごとくにゆけよ翻車魚まんぼち  
水無月晴天感極まれば潮吹きの空満つ虚蜜そらみつやまと

中村成志 @nakam8

## 再生

何度でもあめかんむりをあげるから だめになつてもまたあげるから  
水際をひとり進めば静けさはこの世のものと思えないほど  
すれ違う人から霧雨の匂い 戻つておいで遅くはないよ  
夢だつてちゃんと分かつた眩しくてやまない雨の降る場所だつた  
どこまでも泳いでゆけるしたたかな尾びれがほしい光る尾びれが  
水鳥の飛び立つときの明るさが目覚めのようにまだ覚えてる

ナタカ @utanataka

## 遅効性

毒蛇の棲まう躰の中心に闇を湛える湿原がある  
殺さない程度の毒を強欲な牙が何度も注ぐ くるしい  
首筋を這う毒蛇が意地悪な熱と痛みと光を残す  
湿原に空が映つて簡単に片付けられない感情になる  
体温はゆるゆる下がる乱暴な蛇行の余韻を夜が包んで  
悪夢ではなかったことは憶えてるアスファルトの黒一部だけ濃い

榎原もか @khiraneko

## アンデルセンのメントスコーラ

「崖の上のポニョ」を観た日の夕飯はたいいてい即席ラーメンですね  
私は貝になりたい。そして死後、人魚姫のブラになりたい  
恋をして声を失う。愛のため足を得る。これがとーかこーかん？  
返り血を浴びても浴びても浴びても人魚になれない生き物でした  
人魚姫は YouTuber になりました。アンデルセンのメントスコーラ  
ぼくたちは「大橋のぞみ 現在」で検索をしよう生き物

西淳子 @jacky244Ray

夜の間ひらきし百合の蕊を切りきよの窓口業務を始む  
回収をされないままの水銀が人の温度にほそくふくらむ

シュレッターの屑捨てている真ひるまを吹雪く八甲田山に立てり  
居るのみに華と呼ばれし頃もあり歳末のそら底抜けに暗れ  
見ぬうちに瘦せたるような冬の川 女流の流ってなんなんだろう  
あけがたの米研ぎ汁に顔あらうわれはのっぺらぼうとなりゆく

沼尻つた子 @numatsuta

### あめがふります

Teams のこちらはミュート雨音はそちらからただけ共有される  
水滴が垂れ下がりがりつつ落ちそうで落ちないままに膨らんでゆく  
樹の下にベンチがあつて枝からの雨垂れたちの座る場所です  
ほら今日も皆中だねえ雨粒が波紋の的をびしやびしや射抜く  
側溝の蓋の下には雨がいてずいぶん陽気についてくるんだ  
ゆるやかに雨はわたしを浸食し柔軟剤の匂いを脱がす

ネコノカナエ @nekonokanae\_uta

### 光と色のスコール

さんざめくゲリラ豪雨は傘分かつ耳に囁く君の音だけ  
陽光が反射し「眩しいな」くしゃりと笑う君に湖畔煌めく  
雨降りて手を振る君の頬も濡れ「泣いているのか」「ううん、雨だよ」  
転がった水に伸ばした指先にひやり触れた虹色のネイル  
透明の夏の丸屋根ひそむ館涙と記憶黒文字で切る  
泡ばちん弾け溢れるしゅわしゅわりパンツと高鳴り潤う夏は

玻璃砂丘 @fox042oonigiri

### 流される

雨粒がまつすぐ顔に落ちてくる涙を流せなくってごめんな  
水色というけど水に色はなくペールブルーのさびしさを抱く  
あたたかい雨に打たれているときの自由さ 犬のように死にたい  
海までの距離をなぞっていく地図のうえで私はほとんど鳥だ  
クレッシェンド しだいに強くうつくしく即興曲のような雨音  
流す水流される水すみやかにシャワーを浴びておやすみなさい

春原シオン @haruhara\_sion

## 村童とかみなり

真つ黒の雲に頭上を覆われて麓の村の灯に気づく  
虫かごはランニングへと雨つぶの当たらぬように胸へと抱く  
稲妻に背中を押され脅かされ一本杉へ落ちろと祈る  
くちびるへふきこむ雨を吐き出して山の斜面をすべる転がる  
ようやくに村のはずれの七地蔵 傘のかたむき片手で直す  
パンツまで濡れたちんちんそのままに沸かし直しのお湯へとびこむ

笛地 静恵 @ymc6rhzyEZgwq

## 退屈な青

それぞれの生活がありどこまでも海は青だよ退屈な青  
さざ波が町を揺らせばささやかな願いも泡になって消えるね  
抜け出せば何か変わると言うあの子よせばいいのに越境入学  
自転車チェーンは赤く錆びていて吸い込む空気がよっつとよっつぱい  
潮風は決して涙を乾かさず周回遅れで届く流行  
海が母ならば到底許されぬ祈りを投げて広がる波紋

福山 桃歌 @momoka\_fukuyama

## 六月の犬

ぼつりぼつり 眩くように降る雨の隙間を急ぎ足で行く犬  
公園の蛇口に鼻を摺り寄せて「開けて」と犬が「はい」と私が  
オッサンに愛想振りまく犬といて知り合いは遂にオッサンばかり  
滑らかなかたちで町を闊歩する犬がときどき紫陽花を嗅ぐ  
傾けた傘の滴が犬の背にこぼれてそのまま夕闇になる  
月明かりケンタウルの影が出て 犬の眼の色の空を見上げる

藤田 美香 @w\_isana

## この傘、さして

花曇り傘を忘れた夜だからさくらの坂を手つなぎ走れ  
手のひらの隙間はらはらこぼれゆく花腐す雨まだやまぬまま  
みっしりとのしかかってくる月見えぬ夜の隙間に雨音を聞く  
雨の庭ひそかに咲ける薄紅の紫陽花だったふたりの日々は  
この傘はさせないんだと呟いた背中見送る六月の夜  
雨の朝コーヒー店にいるひとは逃亡者の顔をしていて

藤森 岬 @xk5RX1A8F46kkn

## 神になら

はつ夏のうす水色のベビーバス泡で命を包みゆく午後  
湿原のように遙かな身を持ちて子の泣きながら育ちゆくこと  
息継ぎのようにわたしに抱きついてまた離れゆく子どもの往復  
北国の水はいつでも冷たくてまだ頂きに雪纏う山  
スコップで砂場に山と海つくり水を流して神になる子ら  
晴れた日も傘さしてゆく子の道が雨の調べに満ち満ちてゆく

三浦 なつ @natsumiuraok

## ポリッシュ夜の営みについて

一週間前の私の傑作を綺麗に落とし夜は始まる  
目薬をマニキュアに挿せばマニキュアに光が戻るのです 光あれ  
パーソナルカラーではない色を塗る爪は鎧にも花束にもなる  
海の色人魚の鱗さみしさを塗り重ねても皆ちがう青  
ポリッシュはどここの国のと君が訊くポリリズム諸島だよと答える  
マニキュアが乾く頃には真ん中へ昇る月です ねえ光あれ

深影 こと八 @cotoha\_mikage

## 六月

忍者でも連休明けは憂鬱でやたらと筒を飛び出すあぶく  
今日だって水滴弾く肩と腕ひとりでもまだ生きていけそう  
一番にわたしのことを知っている風呂にもついて来ているスマホ  
急がずにゆっくり白湯を飲んでいる熱く優しく生きる水曜  
手作りの下手な皿から水を飲み生きている猫を愛おしく見る  
点描画みたいに雨は降り出して僕らの胸を濡らしてゆきぬ

衣未 @mimi\_4567

## 天の恩恵 山の恩恵

石清水湧き出す音を聞き入れれば天地の悠久の子守歌  
山並みを覆った雲は薄らいで全ての川は海へと下る  
岩盤に染み入っていく幾星霜伝えてほしい吾が血流に  
落ち葉踏む足に命の脈をみる水気の香るぶな原生林  
人は人の業で命を保ち得ぬ天の真名井の澄みきつた水  
湧き水で淹れた珈琲飲むひととき天地を創った方は善良

西嶋 こしへ @miyazima\_izq

## 川辺の棲みか

京成線千葉へと抜ける橋の上 生まれし川辺セピアに見えて  
教科書に「地盤沈下」で載るフォトは祖父母が生きた尼崎なり  
離婚した父母ちちははと乗るタクシーはもう動かない勝鬨橋かちどきを  
多摩川を越えて電車で職場へと のどかな休日さよならまたね  
八月に浅川沿いを自転車で風に飛び込むささやかな幸  
川辺へと棲みかをやはり戻す我 水の流れをなぜか求めて

六浦筆の助 @Tohakumutun5057

## 雨が連れてきた物語

雨宿り 待ちはじめたる順番に迎へが来るといふわけもない  
暴風雨に桜は震へ花びらをぼろぼろこぼすフロントガラス  
ひいふうみい、もうすぐななつ プレーキを踏むたび雨の猫を拾つて  
街の色消し去つてゆくスコールに薔薇とリップの赤の点描  
いひかけた君の名は気泡につつまれて幾つ漂ふ湿つた車内  
もつと森深く ここですと駆けこんだ廢墟の窓の君に雨ふる

村田一広 @mucci2018

## あたらうしい涙を

半分だけ目覚めた今朝のわたくしは水で薄めたアイスコーヒー  
なつかしい緑の傘と赤い靴 今日のかたつむりに逢いに行く  
ふるさとの色とりどりのトタン屋根六十色のクーピーで描く  
こんなにも話し相手が絵本では言葉も透明水彩になる  
あたらしい涙のための目薬がああ雨雲から落ちてくるから  
水のような孤独の満ちてくる夜はフェニックスの木に抱きついていたい

山上秋恵 @akemuroran

## 水と2歳児

水たまりに靴でつっこむ君だからタライの水ともすぐに友だち  
洋服が濡れるのはイヤ 脱ぎ捨てたズボンを照らす初夏の太陽  
君と私 風の吹く音水の音 青いタライと混ざる色水  
「みつきーのおりちよーだい」次々と氷を水に沈める仕事  
「寒くない？」心配しても「まだ遊ぶ！」子を引きとどめる水の魔力よ  
次回用の氷を作るいい顔の「たのしかったね！」また聞きたくて

悠佳里 @yujari\_ritto

## 溢れ出るもの

青空にまっすぐ伸びる噴水を見上げて待った虹と恋人  
水槽の水の音さえ煩くて溺れてしまふ孤独の海に  
溢れ出る感情何か分らずに水を求めて向かうコンビニ  
寂しさを埋めるように降る雨は優しく光り染み込んでゆく  
雨音を聞きつつ家事をこなしてく全てが水に流れてしまえ  
ただそこに彫刻のように佇んで頬を流れる泉を見てた

ゆや ゆき @yuya\_yuki\_tanka

## 坊主頭

旧盆に本家へ集まる親戚の多さに母らは本音を隠す  
叔父さんの消防車から放水をすれば夏だと思っておさなご  
おさなごは我れ先に濡れ冷たさで唇染まる青紫に  
遠戚の坊主頭の双子らは今も元氣か真つ黒な顔  
杖を売る仕事をしている兄の方フェイスブックで偶然に知る  
髪は減り少し太つてあの頃と変わらないのはシルエットだけ

あかね @b7282e\_akaneiro

## せうば

過ぎ去つてまたやってくる灯台の明かりを、だからまだ信じてる  
海霧うみぎりは立ちこめるだけ立ちこめてまっすぐ向くという回り道  
あ、落ちた それでようやく雷を雷たらしめる過去の音  
はじまりも終わりも光 雨粒のひとつひとつが彼らを終える  
波にも白いところと白くないところ 暗闇の中では気付かない  
さらば夜さらば終わりのない航路 まず瞳から朝焼けていく

夜夜中さりごと @yorusari

## 過去

みどりごを見し母見やり飲むコーラ骨まで溶かすジんクスのせめ  
何となく買ったダイエット・コークに何れを観たいか見抜かれてゐる  
青色のサンタを想像してひとり落とし穴には自ら嵌まる  
ペプシマンを全身タイトの不審者と疑わなかつた 夏が眩しい  
足漕ぎでふたりの時を駆けつつ波止場はいつもCokeのベンチ  
悠久の琥珀のやうに放課後を閉じ込めて呉れクラフトコーラ

うい @liama\_miyashita

## とほり雨

とほり雨みたいなひとがわたくしを濡らして帰りゆく夕まぐれ  
水圧の弱いシャワーを浴びながらふたりなんにも話さなかつた  
わたくしに滝は流れる あぢさゐにほひがないと知つたときから  
泣かないときみに背中を向けてゐる水分量の足りない肌を  
なまぬるくなつた麦茶を飲み干して美味しかつたと言ふろくでなし  
自販機から消えてしまつたボルヴィック きみが残していつた吸殻

龍翔 @oppizuntsuan

## さよなら夏よ

蒸し風呂のような部屋を抜け出してアイスを買に行く道も夏  
梅雨明けの湿気と長い踏切と退屈な日々大切な日々  
青春は通り雨より一瞬で終わる僕らは大海の舟  
悔しいと泣けど水面のひとしづく前を向こうとだれかが言つた  
湖に沈む鞘などないので勝つき足掻き得るもの  
大好きなひとと遠く蝉時雨さよなら夏よ僕らは進む

ルオ @ruo129

## 水玉初恋譚

皆が言う「憂鬱な週の折返し」俺にとって君に会えるシフト  
灰色の古いシーツを水色に買い換えました 遊びにおいで  
停電の寝室にただ息の音と水音響く 海の香りだ  
白鳥の舞う池に寄り湖の淵から落とされるように眠りへ  
水色の背景よりも赤と黒 金色が似合うあなたが好きです。  
人生は流れるものだが 循環も戻りもしない ただ淀むだけ

Redvelvetcake @R\_velvet\_Cake



mizutsuki 10

<http://kohagiuta.com/design/mizu10/>



2021年初夏 「水」がテーマのアンソロジー みづつき 10

発行：2021.06.07 | 短歌：ご寄稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ